

原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ  
若手原子力研究プログラム 事後評価総合所見

研究開発課題名：放射線被ばくのバイオマーカー測定法開発の基盤研究					
研究代表者（研究機関名）：飯塚大輔（国立大学法人広島大学）					
研究期間及び研究経費：平成22年度～平成23年度（2年計画） 19百万円					
項目	要 約				
1. 研究開発の概要	迅速かつ簡便に一般公衆の被ばく線量を推定し、その後の治療方針を決めるトリアージ（識別救急）に用いることができる指標となる放射線被ばく生体応答性バイオマーカーの有無を検討し、それら分子の実用化に向けた基盤研究を行う。				
2. 総合評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"><b>B</b></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9週齢のB6C3F1雌雄マウスを0.25Gy～6Gyの<math>\gamma</math>線で全身照射し、経時的に採取した尿検体から、バイオマーカー候補タンパク質としてadipsinとhepcidin2を見出すなどの成果を挙げた。しかし残念ながらマウスで見つかった候補遺伝子hepcidin2はヒトにはない遺伝子であったので、直ちにヒトの被ばく線量推定としてのバイオマーカーの有効性確認までには至らなかった。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>S) 極めて優れた成果が挙げられている</li> <li>A) 優れた成果が挙げられている</li> <li><b>B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている</b></li> <li>C) 部分的な成果に留まっている</li> <li>D) 成果がほとんど挙げられていない</li> </ul> </td> </tr> </table>	<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9週齢のB6C3F1雌雄マウスを0.25Gy～6Gyの<math>\gamma</math>線で全身照射し、経時的に採取した尿検体から、バイオマーカー候補タンパク質としてadipsinとhepcidin2を見出すなどの成果を挙げた。しかし残念ながらマウスで見つかった候補遺伝子hepcidin2はヒトにはない遺伝子であったので、直ちにヒトの被ばく線量推定としてのバイオマーカーの有効性確認までには至らなかった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>S) 極めて優れた成果が挙げられている</li> <li>A) 優れた成果が挙げられている</li> <li><b>B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている</b></li> <li>C) 部分的な成果に留まっている</li> <li>D) 成果がほとんど挙げられていない</li> </ul>
<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9週齢のB6C3F1雌雄マウスを0.25Gy～6Gyの<math>\gamma</math>線で全身照射し、経時的に採取した尿検体から、バイオマーカー候補タンパク質としてadipsinとhepcidin2を見出すなどの成果を挙げた。しかし残念ながらマウスで見つかった候補遺伝子hepcidin2はヒトにはない遺伝子であったので、直ちにヒトの被ばく線量推定としてのバイオマーカーの有効性確認までには至らなかった。</li> </ul>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>S) 極めて優れた成果が挙げられている</li> <li>A) 優れた成果が挙げられている</li> <li><b>B) 一部を除き、相応の成果が挙げられている</b></li> <li>C) 部分的な成果に留まっている</li> <li>D) 成果がほとんど挙げられていない</li> </ul>				